

中学校活用例



※掲載作文はそれぞれの活用例で紹介

全学年 総合的な学習の時間

○学習課題 「国際理解」

○掲載作文 「一足のくつで一つの笑顔」

○活用の仕方

一 学習を通して、「私たちにできることは何か」を話し合う。

二 生徒会で活動している文房具回収を話題にあげ、「一足のくつで一つの笑顔」を読む。

○活用の効果（生徒の感想）

一 無意識に、発展途上国の人々を差別していたことに気づいた。自分の考えを改めたい。

二 このことは、国際理解だけでなく、日々の生活の中でも大切なことである。

三 自分たちがいかに恵まれているかを改めて感じた。感謝の気持ちを持ち、自分たちにできることを、小さなことから始めていきたい。

第二学年 道徳

○資料名 「国境線が鍛える共生の思考」

（出典 「中学生の道徳」 廣済堂あかつき）

○掲載作文 「一足のくつで一つの笑顔」

○ねらい

地球人の一人としての自覚を深め、世界の平和と人類の幸福を希求する道徳的心情を育む。

○活用の仕方

一 難民の現状と本時のねらいを知る。

二 資料を読む。

三 資料の印象をワークシートに書かせる。

四 ワークシートの食料自給率のグラフから、日本の食料自給率が低いことについてどう思うか話し合わせる。

五 資料中にある「よそ行きの服を着た子供の写真」をみてどう思うか話し合わせる。

六 人権作文「一足のくつで一つの笑顔」を読んで、感じたことや考えたことをワークシートに書かせる。

七 国際貢献のあり方について、私たちが大切にしなければならないことを考えさせる。

○活用の効果

ボランティア活動があるということを知ることができたと同時に、自分たちと同じ中学二年生が実際に行動していることに刺激を受け、自分自身も何かしなくてはと感じた生徒が多かった。

第三学年 社会（公民）

○ねらい

日本国憲法の保障する権利にはどのようなものがあるか理解する。

○掲載作文 「小さな命」

「世界の子供たちの人権について」
「障害のある人と共に生きる」

○活用の仕方

現代社会の課題をとらえる事例として掲載作文を紹介し、どのような権利が侵害されているか考えさせる。

○活用の効果

事例（作文）から読み取ること、生徒が人権について具体的にとらえ、学習内容に結び付けることができた。

全学年 人権週間での取組

【校長講話での活用】

校長講話のあとに、一人一人が人権作文に取り組む。書く際の参考にする。

○掲載作文 「母から学んだ思いやり」

「障害のある人と共に生きる」

【体験活動での活用】

アイマスク・車いす・老人疑似体験活動のあと、振り返りを行うときに、作文を読み聞かせる。

○掲載作文 「障害」大切なメッセージ

「偉いことが当たり前になる世の中へ」

※人権週間 十二月四日～十日